



大いちょう

平成30年 5月 1日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 平成30年度 No. 2

048(829)2737

薫風を感じて

校長 並木 昌和

校舎の4階から外を見ると、新緑が目まぶしく感じられ、大きな「鯉のぼり」が空高く泳いでいる姿を見ることが出来ます。いつのころからか、子どもが丈夫で強く正しい立派な人間になるようにという気持ちから「鯉のぼり」を立てたのだと思います。

私たち大人は子どもの成長を願うと共にいろいろな形で子どもの成長をサポートしてきました。地域の祭りや伝統行事などへの参加を通して地域の大人達がみんな協力して地域の子どもの育ててきたのです。地域との関係が希薄になったと言われて久しいですが、現在、私たちの周りには学校と子どもたちを支えていただいているPTAや育成会、大いちょうの会などをはじめとした多くのボランティアの方々が一生涯懸命に活動してくださっています。本当にありがたいことです。高砂小に通っている子どもたちは幸せだだと思います。今月は、様々な活動が新体制になり本格的に動き出します。どうか昨年度にも増してお力添えをいただけますようお願い申し上げます。

今から15年程前のことです。長男がスポーツ少年団に入ったことが縁で、父親同士で食事をする機会がありました。話も弾み、当時の担任の先生の話になりました。驚いたことにさっきから隣で話をしていたのは、1年生の1学期に転校したW君だということに気付きました。W君も当時の並木君が隣で話をしていることに大変驚いた様子です。無理もありません、40年程の年月が過ぎ、お互いその頃の面影もなくなっていたのですから・・・しばらくしてW君が「あの暴れん坊の並木が小学校の先生をやっているとは・・・」「並木にはずいぶんいじめられたからな。」と言い出しました。

もう頭の中は真っ白です。

『暴れん坊？おれは友達をぶったり、蹴ったりしていたのだろうか？』『いじめた？意地悪なことをしたのだろうか？嫌がることを言ってからかっていたのだろうか？W君を仲間はずれにしたのだろうか？』不安は次々と浮かんでいきます。しかし、どうしても当時自分がしたことを思い出すことができません。W君に聞く勇気もありませんでした。やった自分は何も覚えていないけれども、やられた方のW君は40年余りの年月を経ても忘れることはできなかったのです。心に深い傷を負っていたに違いありません。「いじめ」がどんなに卑劣なことであるか、改めて思い知らされました。私が学校でかかわることのできる子どもたちにはこんな思いをさせてはならない。決意を新たにした日になりました。

新しい学級、新しい友達、新しい先生とスタートし、1ヶ月が経ちました。なんとなくお互いの距離感を図りながら過ごしてきた時期は終わります。今までは見えてこなかった様々なことが見えてきたり、現れてきたりするものです。慌ただしく時は過ぎてしまっていますが、そんな時ほど子どもたちとじっくりと向き合い、不安や心の変化に敏感でありたいものです。